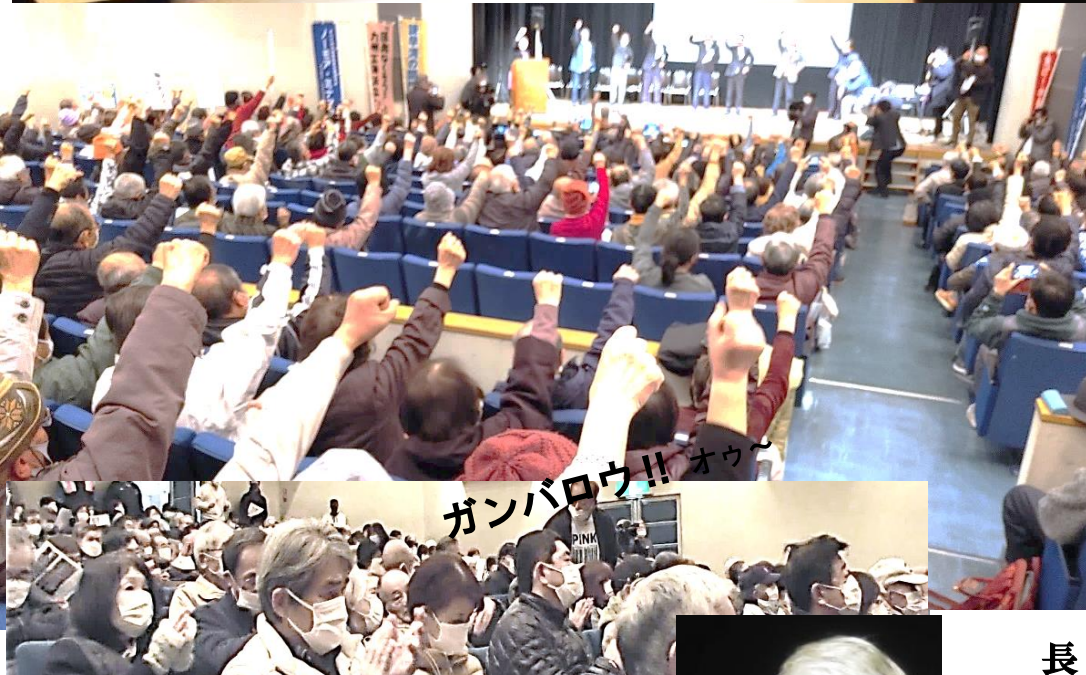
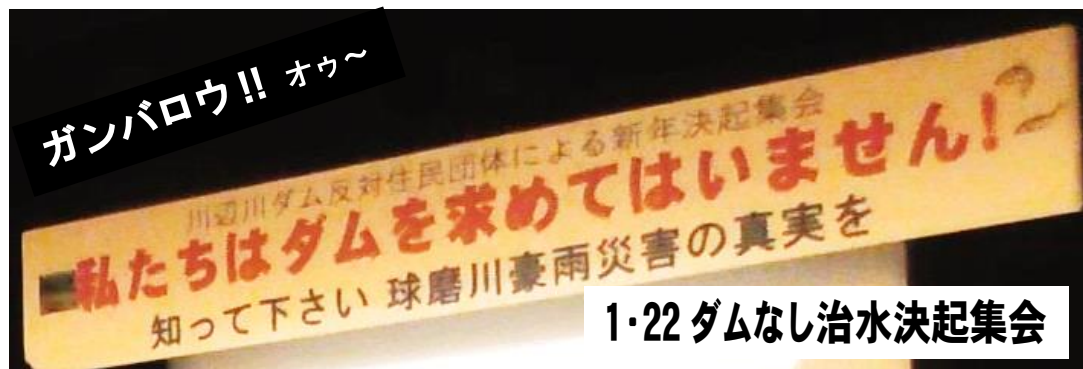




長年ダム建設反対の声を上げ
闘い続けてきた闘士ともいえる
川漁師・吉村勝徳さんが吠える

がものすごく高く上がっていました。：今回の水害。ラジオやなんか聞いてみると、時系列が合わないんですよ。今までの水害だったら上から被害が出ていくのが普通ですが、暗いうちに芦北がやられ、夜明け前に坂本がやられている。渡が夜の明けるときにはもう被害が出てしまったっていう話でしょう。ダムでどうやって止めるんですか。

上で止めて、はじめてダムっていうのは効力を発揮するんです。下から攻められたらどうしようもないですね。

緊急放流というが、これ以上ダム湖の水位をあげないようにするための放流なんだ。下流にどういう被害が出ていようが関係ない。治水は命を守るもので、ダムを守るものではない。

市長を変えましょう。でなければ、人吉の復興は歩み前に進みません。我々が頑張れば変えられる。頑張ろうという人がここにもいますので絶対にふれない人にかえましょう。(拍手々々)

— 国・県・郡市町村会はどこを向く — 住民の声を聴く市長の誕生を！！

私たちは住民の声に耳を傾け、ダムによらない復旧・復興に取り組む市長の誕生を願っています。

「みなさん！奇跡を起こそうではありませんか」と、特別発言として壇上で気炎上げる
— 今度の闘いは人吉だけの問題ではない！ — 田中信孝氏



ダム反対を掲げているのはこの私一人です。今度の闘いは人吉だけの問題ではない、球磨郡だけの、全国の問題でもない世界の問題であります。そこをしっかりと突破していかなくて私たちの魂はどこで叫びをあげていくのでしょうか。団結して頑張っていかなければならないことを心から期待しております。

— ダムで命と環境は守れない！ —

蒲島郁夫知事は、球磨川の支流である川辺川に穴あき治水ダムを造り、命と環境を守ると言っていますが、この二つが守れないことは、日本をはじめ世界中のダムの歴史が証明しています。ダムは想定された雨量には有効ですが、想定外の雨量には対応できず、かえって危険です。

気候変動でいつ、どこにどれくらいの雨が降るかも予測がつかない時代になりました。もし球磨川上流の市房ダムと川辺川穴あきダム治水ダムが、同時に緊急放流されたら先の水害の倍は覚悟しなければなりません。ダム湖に水を貯めて河道に流す時代は、すでに破綻しているのです。

— この清流を未来へつなげていくことが私たちの責任!! —

さらに穴あき治水ダムは、ダムの底部に穴が開いている構造で、上流の堆積物を下流に絶えず流し川辺川や球磨川は濁った川になってしまいます。濁った川に観光客は来ません。川下りやラフティングはしてくれません。球磨焼酎は球磨川水系の伏流水を活用しています。清流球磨川を失えば、その恩恵にあずかることができなくなり、人吉は急速に寂れることでしょう。これらの理由で、川辺川穴あきダムには反対です。

我々の先代はどんな水害があっても協力し、街を立て直してきました。清流球磨川を残してきたんです。この清流を我々で残して、次世代へ未来へつなげていくことが、私たちの責任であります。(そうだ！・拍手!!)

しっかりと闘っていきますので、絶大なご支援を心から
お願い申し上げます。(鳴りやまぬ拍手・拍手!)

＜開会のあいさつ＞
ダム反対という私たちの決意を全国に発信、川辺川ダム建設を中止に追い込む一歩になることを願って！



林 通親さん

‘20年7月4日の豪雨災害でお亡くなりになった方々被災された方々に、心よりのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

私も全壊認定を受けた被災者のひとりです。あの日、真夜中から激しい雨と雷で眠れず、うとうととして目が覚めたら朝の7時過ぎ、空き地に水が入ってきました。近くの平屋の4才の子とそのおかあさん、私たち夫婦4人は2階に避難しました。20分ほどで1階は水没しました。水かさが増す速さにびっくりしたことを覚えています。あの日、生死はまさに紙一重でした。

私たち被災者が被災の直後、生活の再建に日々忙殺されていた時、突然蒲島知事は流水型ダム建設を発表しました。知事は‘08年に(清流は宝)「ダムなき治水を極限まで」約束したはずですが。流域の8割以上の方がその決断を支持しました。それから’20年の豪雨災害迄の12年間、何をしましたでしょうか。治水対策もせず、結果大きな被災となりました。

流水型ダムは命ある環境を守るものではなく、11市町村は流域市町村は衰亡すると思います。球磨川も川辺川も宝です。なぜダム建設が流域に住んでもいない人々によって決められるのか、生きることに苦労しているのにダムに2700億円も税金を使うのはおかしい、などの声を聞きます。本来、流域住民の民意に基づいてなされるべき治水対策が、ダムの名のもとにどこか遠いところでどんどん進められていることに怒りと焦りと不安を持っています。

昨年行われた公聴会やパブリックコメントでは7割以上のダム反対の民意が示されました。

しかし、国交省や県はその声に耳を傾けることなく、ダム建設を強行しようとしています。

ダム建設の一番の問題は民意がおろそかにされていることではないかと思っています。国交省や県に「国民の膨大な税金を使うダム建設を勝手に決めて進めるのはやめよう」「民意を聞け」と要求しましょう。また、今年は各地の地方選挙の年です。ダム反対の民意が反映された地方政治を求めていきたいと思っています。本日のこの会が、ダム反対という私たちの決意を新たにし、その決意を全国に発信し、連帯し、川辺川ダムを中止に追い込む、大きな一歩になることを願っています。

ダムによらない流域の治水と復興を求める十ヶ条
提案・満場の拍手で採択 ※ 全文裏面に。

川辺川現地調査拡大実行委員会

連絡先：土森武友 玉名市岱明町野口 ☎(080・3999・9928)

発行元：茂吉隆典
中島 康、林 通親

ダムによらない流域の治水と復興を求める十か条（案）

国土交通省内のダム推進派と熊本県は、流水型（穴あき）の川辺川ダム建設に固執していますが、川辺川・球磨川にダムは要りません。私たちは、以下のようにダムによらない治水と流域の復興を求めます。

1.土砂撤去と必要な堤防の修復・整備の実施

なおざりにされている流域に堆積した土砂撤去を早急に実施するとともに、必要な堤防の修復や整備、河道拡幅等を行なって、川で流せる水の量を増やし、再度の溢水を防ぐべきです。

2.遊水地の整備

球磨川や川辺川の流域で、関係住民合意の下で遊水地を整備することにより、下流に流れ込む水をそこに溢れさせ、下流の水位や流速の低下を図るべきです。

3 宅地かさ上げ・高台移転

中流域を中心に、2020年の豪雨災害時の最高水位でも浸水しないように、住宅・宅地、必要な箇所での道路や橋等のかさ上げを、そのような防水対策を取りようがない集落の場合、安全な高台へ移転するなど住民が安心・安全に暮らせるようにすべきです。

4. 住宅・宅地をはじめとする手厚い生活再建支援を

ダム建設に約2700億円を使うぐらいなら、代わりに住宅の修復、建替え、移転に伴う住民の負担を出来るだけ少なくし、希望する安全な場所での生活再建を出来るだけ早く進めるために最大限の支援を行うべきです。

5.肥薩線を早期復旧させること

地域の足であり、観光上も大切な肥薩線を早急に復旧させるべきです。その際には線路をかさ上げするなど、再度、同じ被害にあわないようにするべきです。

6.危険な瀬戸石ダム撤去を

ダムの上下流で被害を拡大させた、危険な瀬戸石ダムは早急に撤去すべきです。

7.山の修復・保全策の早急な実施を

そもそも、今回の豪雨災害の大きな原因は流域の森林が荒廃し、保水力を低下させ土砂崩壊や大量の流木を発生させたことにあります。健全な山林の育成と保全のための適切な植林、間伐、伐採が行われるように森林政策を見直し転換すべきです。

8.支流対策を

今回、球磨川本川の氾濫よりも先に、流域各地で支流の氾濫が起き、被害を拡大させました。行政はダムよりも支流災害を防ぐ対策を優先するべきです。

9.日本一の清流を破壊させない

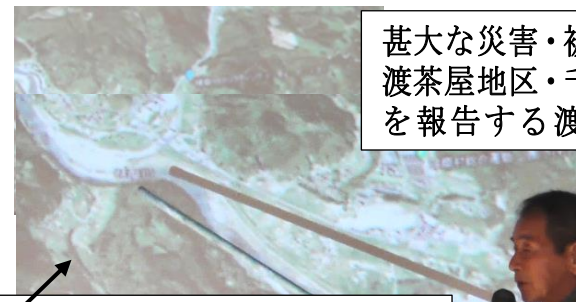
私たちは日本一の清流を壊す穴あきダム建設など求めてはいません。どんなダムであっても、清流を濁し、川・海を壊し、水害の危険を増してしまうからです。

10.公共事業は住民決定で！

これまでの川辺川ダムや国営利水事業を阻止した闘いは、公共事業に住民の意思を反映させるためのものでした。そもそも、公共事業は行政主導の形だけの偏った「住民参加」ではなく住民決定の下に進めるものであるべきです。

ダムは、地域社会に分断と対立をもたらし、ひいては地域社会を衰退させてしまいます。私たちは球磨川流域で長年、生活を営んできた誇りと自信をもって、全国の心ある人たちと連帯しながら、2023年を、ダムを止め、清流を守り抜く始まりの年とし、上記十ヶ条を実現するために闘います。

2023年1月22日 川辺川ダム反対住民団体による新年決起集会 参加者一同



甚大な災害・被害を受けた渡茶屋地区・千寿園の実態を報告する渡小川俊治さん

相良村議 永田博人氏。

10年前行政を辞した。だが、ダム問題の復活で、茂吉さんの後を受け継ぎ村議に、と語る



※地元駒井田町で被災。ダムなし復旧・復興を求める会の先頭に立つお一人文化ホールや宿泊施設経営する小川茂さん

朝5時半過ぎ、突然ホールの入り口からどつと浸水。その勢いは、とてつもない。水が濁り、あつた。遅れたら背丈を超えて溺れてしまった。なぜ？私は調べました。なんと、市房ダムの予備放水。この流入で危険水位に達した。3日11時間、19秒にわたって放水が。ダムは命を脅かす存在に！



・流された第1橋梁の根っこに私の家はありました。今回の洪水で木が何本も家に突き刺さり全壊でした。

私は1956年にここで生まれました。'55年に下流に荒瀬ダム、'58年には上流に瀬戸石ダム、そして'59年に水上村に市房ダムができました。私が育った地域は、荒瀬と瀬戸石ダムに挟まれたダム湖に……。以前は蛸も・・・楽しい川でした。しかし、年々ダムの環境が悪化。洪水被害に慄く思いを語り、川辺川ダムを造る？あり得ない。と厳しくダム撤去・阻止を訴えました。

※光永氏の対岸、子どもの頃からの体験を怒りにかえて語る 隈部直一氏



※坂本町のお寺の住職しながら保育園と特養運営をしている光永了円氏

・ダムを造ると、二度と清流はかえってこない。川辺川ダムは要りません。ふるさと・郷土を守る戦いです。建設をやめさせましょう。
・毎朝、球磨川を見ながら起き、球磨川と共に暮らしてきた。
・4日、3回のかさ上げ工事で、できたばかりの堤防から水が逆流。
・肥薩線の第1橋梁が流され、裏山が崩れるのをみる。加えてダムの緊急放水。もう駄目だと集落23名全員高台に。そんな了円住職の話に涙が滲む・・・。
・荒瀬と瀬戸石ダムに挟まれた私たちの地域は、70年間もほんろうされてきた。清流球磨川とは名乗れない川となってしまった。
・瀬戸石ダムは土砂の堆積で球磨川の流れる断面積を65.9%塞いだ。3m70cm水位が上がって神瀬地区は大きな被害を。6mから9m上がったとの専門家も。※大切なこと盛り沢山。箇条書き風に



山の荒廃の原因と現状を端的に語る「川辺川を守る県民の会」代表 中島康さん

被害の原因は国の大規模な伐採！山の健全化を！昭和40年代から、国の政策によって杉やヒノキをバン植えた。しかし、その後、貿易自由化でやすい木材が入るようになり、山がほったらかしに。山の木の新芽を鹿が食べ、さらに下草まで食べ、下草がなくなると山の土は乾いて軽くなり、雨が降ればすぐにすべりおりにきます。今回被害を大きくした流木は何十万本の流木。原因は国の大規模伐採。原因の8割はあると思われます。今回の雨はそうでもなかったと、五家荘の人たちは言っています。吊り橋も流されてなかったのに、国はそこにダムをつくれれば被害は6割減っていたと言います。土留め工事やっていたところはあまり流れていない。山の健全化・川の健全化を！ダムは絶対に人の命を救うものではない。